

-to the future-

夢をのせ、海をわたり、世界をひらく

宮城県慶長使節船ミュージアム（サン・ファン館）拠点計画



目次

1. 実施体制	3
2. 事務の実施体制	5
3. 基本的な方針	6
3-1. 現状分析	6
3-2. 課題	17
3-3. 文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項及び基本的な方向性	19
3-4. 地域における文化観光の推進への貢献	21
3-5. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出	21
4. 目標	22
5. 目標の達成状況の評価	26
6. 文化資源保存活用施設	27
6-1. 主要な文化資源についての解説・紹介の状況	27
6-2. 施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携	30
6-3. 施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携	32
7. 文化観光拠点施設機能強化事業	34
7-1. 事業の内容	34
7-2. 特別の措置に関する事項	50
7-3. 必要な資金の額及び調達方法	51
8. 計画期間	57

1. 実施体制

文化資源保存活用施設	名称	宮城県慶長使節船ミュージアム	所在地	宮城県石巻市渡波字大森30-2
申請者 文化資源保存活用施設の設置者	名称	宮城県	所在地	宮城県仙台市青葉区本町三丁目8-1
	代表者	知事 村井 嘉浩		
	地方公共団体 内部の役割	【主担当部署】消費生活・文化課 【連携する部署】観光戦略課、東部地方振興事務所		
共同申請者① 文化観光推進事業者	名称	石巻市	所在地	宮城県石巻市穀町14-1
	代表者	市長 齋藤 正美		
	役割	施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者		
共同申請者② 文化観光推進事業者	名称	公益財団法人慶長遣欧使節船協会	所在地	宮城県石巻市渡波字大森30-2
	代表者	代表理事 一力 雅彦		
	役割	施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者		
共同申請者③ 文化観光推進事業者	名称	公益社団法人宮城県観光連盟	所在地	宮城県仙台市青葉区本町三丁目8-1
	代表者	代表理事 会長 村井 嘉浩		
	役割	施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者		
共同申請者④ 文化観光推進事業者	名称	一般社団法人石巻観光協会	所在地	宮城県石巻市中央二丁目11-21
	代表者	会長 後藤 宗徳		
	役割	施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者		
共同申請者⑤ 文化観光推進事業者	名称	一般社団法人石巻圏観光推進機構	所在地	宮城県石巻市中央二丁目11-21
	代表者	代表理事 後藤 宗徳		
	役割	施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者		
共同申請者⑥ 文化観光推進事業者	名称	有限会社益野製菓（アルパジョン）	所在地	宮城県石巻市恵み野四丁目1-5
	代表者	代表取締役 益野 英昭		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		

共同申請者⑦ 文化観光 推進事業者	名称	株式会社いしかわ（珈琲工房いしかわ）	所在地	宮城県石巻市北村字小崎—15—3
	代表者	代表取締役 石川 光晴		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		
共同申請者⑧ 文化観光 推進事業者	名称	有限会社ファーム・ソレイユ東北（お茶のあさひ園）	所在地	宮城県石巻市旭町10—8
	代表者	代表取締役 日野 雅晴		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		
共同申請者⑨ 文化観光 推進事業者	名称	株式会社ビヨンド	所在地	宮城県石巻市鹿妻南三丁目4—11
	代表者	代表取締役 斉野 浩一		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		
共同申請者⑩ 文化観光 推進事業者	名称	相内木工	所在地	宮城県石巻市北上町女川字新峯前5—2
	代表者	代表 大内 宏毅		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		
共同申請者⑪ 文化観光 推進事業者	名称	石巻セーリングアカデミー	所在地	宮城県石巻市あけぼの2—5—27
	代表者	代表 高城 宏		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		
共同申請者⑫ 文化観光 推進事業者	名称	株式会社ミヤコーバス 石巻営業所	所在地	宮城県石巻市東中里一丁目1—1
	代表者	所長 後藤 正基		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		

2. 事務の実施体制

進捗管理等

文化資源保存活用施設の設置者である宮城県が計画の全体調整や事業の進捗管理等を行う。

事業の実施・連携体制

ミュージアムの管理運営を担う指定管理者である公益財団法人慶長遣欧使節船協会が、拠点計画に基づく事業を実施していく。実施にあたっては下記の文化観光推進事業者と連携して進めていく。

【1号】

事業者名	主な連携内容
石巻市	地域の観光動向を把握・分析し、各文化観光推進事業者が効果的に事業を実施することができるよう情報の共有・助言等を行うとともに、相互に連携を強化し、観光客の周遊を促進する。
公益社団法人宮城県観光連盟	
一般社団法人石巻観光協会	
一般社団法人石巻圏観光推進機構	

【2号】

事業者名	主な連携内容
有限会社益野製菓（アルパジョン）	食文化に関する体験企画・商品の共同開発・実施
有限会社ファーム・ソレイユ東北（お茶のあさひ園）	
株式会社いしかわ（珈琲工房いしかわ）	ミュージアムカフェへの技術提供・メニューの共同開発等
株式会社ビヨンド	ショップオリジナル商品・体験企画の共同開発・実施
相内木工	帆船（木の文化）に関する体験企画・商品の共同開発・実施
石巻セーリングアカデミー	帆船（ヨット操船）に関する体験企画の共同実施
株式会社ミヤコーバス 石巻営業所	交通案内の充実

また、計画期間中も事業の実施状況を確認しながら改善に取り組み、文化観光推進法が目指す好循環が持続的かつ発展的に営まれる体制構築を図る。

3. 基本的な方針

3-1.現状分析

3-1-1.主要な文化資源

文化資源1 慶長遣欧使節の歴史的意義

(1) 仙台藩主伊達政宗と慶長遣欧使節

戦国大名伊達政宗は豊かな教養を持つ「伊達者」として知られ、南蛮の文化にも関心をもっていた。1601（慶長6）年初代仙台藩主となり、国づくりの一環として外交使節団「慶長遣欧使節」の海外派遣を行った。当時の海外貿易はインド洋航路が基本だったが、政宗は太平洋に面する仙台藩の立地を生かし、スペインの植民地であったメキシコと直接貿易を行うという画期的な事業を構想していた。



(2) 慶長遣欧使節の旅路

慶長遣欧使節は1613（慶長18）年10月28日牡鹿半島月浦（現石巻市月浦）より旅立った。スペインとの貿易交渉に加え、仙台領内でのキリスト教布教のためローマ教皇に宣教師派遣を依頼する目的があった。

使節の大使に選ばれたのは政宗の家臣支倉常長である。スペイン人宣教師ルイス・ソテロとともに太平洋を渡った常長は、メキシコを経て大西洋を横断し、スペインのマドリードにて国王フェリペ3世に謁見。



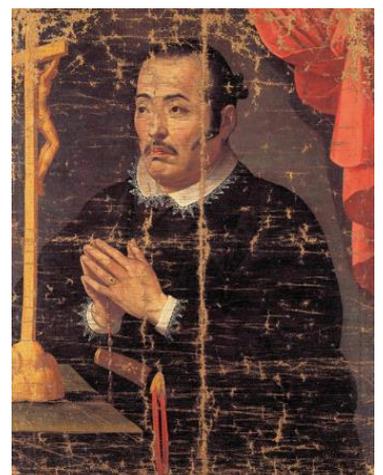
さらにイタリアのローマに入り教皇パウロ5世に謁見を果たした。その後、メキシコ同様スペインが支配していたフィリピンのマニラに滞在し交渉を続けたが、出帆から7年後の1620（元和6）年に帰国した。

(3) 慶長遣欧使節の世界的評価

日本国内のキリシタン弾圧などの影響を受け慶長遣欧使節の外交は成功しなかったが、ヨーロッパ各地で堂々と交渉を行ったことは国際関係史のなかで大きな意義を持つ出来事であったと評価されている。

また、彼らの関連資料については使節が立ち寄ったメキシコ、スペイン、イタリアなどの関係各国に現在も大切に保管されている。そのうち支倉常長が海外から日本へ持ち帰った資料は「慶長遣欧使節関係資料」として整理され、現在は仙台市博物館（宮城県仙台市）が所蔵している。2001（平成13）年には国宝の指定を受けた。

そのうち「支倉常長像」「ローマ教皇パウロ5世像」「ローマ市民権証書」の3点は、2013（平成25）年6月にユネスコ記憶遺産にも登録された（日本ユネスコ国内委員会推薦史料としては初）。鎖国直前の日欧交渉を直接伝えるものとして外交史上貴重な遺産であるとの国際的な評価を受けている。



写真／「支倉常長像」
仙台市博物館所蔵

文化資源2 慶長遣欧使節船「サン・ファン・パウティスタ」号の造船と航海

(1) 慶長遣欧使節船の建造と航海

使節船「サン・ファン・パウティスタ」号は伊達政宗によって建造されたガレオン船。慶長遣欧使節ら180人を乗せ月浦から出帆し、太平洋を2往復した。最後はフィリピンで売却され現存していない。

史実に残された寸法は現代に換算すると全長55m、高さ48m、重さ500tとなる。



(2) 慶長遣欧使節船の復元事業と地域の造船文化

1990（平成2）年以降、地域の歴史を後世に伝えるため使節船の復元構想が本格化し、石巻市内の造船所で原寸大の木造復元船が建造された。1993（平成5）年に進水し、各地へ航行したのち、1996（平成8）年の開館に合わせてサン・ファン館に係留され、中核展示物としての役割を担ってきた。

(3) 展示リニューアルと復元船（1/4スケール）の整備

展示の中心となってきた原寸大の復元船は、東日本大震災の大津波の直撃を受けたことや、建造から20年以上経過したことによる老朽化等の影響により、2022（令和4）年をもって解体され、新たに2024（令和6）年にはミュージアム展示の全面リニューアルに合わせて、1/4スケールの復元船を製作した。



文化資源3 世界的にも他に類を見ない歴史×地理的独自性

東日本大震災の被災と復興／慶長大津波と慶長遣欧使節の関係性

2011（平成23）年3月、東日本大震災における大津波の直撃を受け、ドック棟の展示物が流出するなどの甚大な被害を受けた。

震災をきっかけに地域の災害史の再検証が進み、1611（慶長16）年に発生した慶長大津波と2年後に実行された慶長遣欧使節派遣との関係性に新たな研究の視点が加わった。

慶長大津波は東日本大震災と同規模の災害であったが、政宗は計画どおり使節派遣を実行し、さらに海外との貿易を被災した仙台藩の復興に役立てようとした、という論説は大 画像：大津波直撃の様子 きな注目を集め、復興へと歩む地域の人々を勇気づけた経緯がある。

以後、サン・ファン館のテーマに「災害・復興」の要素が加わることになり、石巻市内には震災伝承施設（みやぎ東日本大震災津波伝承館/石巻市震災遺構門脇小学校等）が複数存在していることから共同展示を実施するなど事業の幅が広がっている。



文化資源4 慶長遣欧使節及び帆船文化・木造船文化に関する所蔵資料（館所蔵）

区分	主な内容	
慶長遣欧使節を題材とした絵画作品	鶴岡孝夫「支倉常長ローマ市民大歓迎の図」等／鈴木美登里「サン・ディエゴ要塞」「堀の一角(アカプルコ市)」等／渡邊八郎尉門「慶長遣欧使節船復元建造工事風景」3部作／千葉勇作「雄図(仮称:建造)」ほか	31点
西洋古地図/古文書	『伊達政宗遣欧使節記』(イタリア語版)／オルテリウス『鞆鞆日本図』ほか	24点
慶長遣欧使節研究史にかかる資料(明治～昭和初期)	小西九兵衛『欧南使士支倉遺蹟 月浦餘影』／平井希昌編纂『伊達政宗欧南遣使考』／堀田信直『伊達政宗欧南遣使始末 一名支倉六右衛門羅馬派遣事略』／光明寺『支倉常長傳記 ふらイルイスそてろ略傳 合巻』ほか	
帆船模型	「サン・ファン・パウティスタ号」「サンタ・マリア号」「北前船」「捕鯨船(第3大東丸)」ほか	112点
写真	キャンバス張り／メキシコ・イタリア・スペイン風景ほか	62点
造船に関するもの	船大工道具／地域の民俗具ほか	
複製資料	セビリヤ市宛伊達政宗書状(複製)／セバスチャン・ビスカイノ『金銀島探検報告』原書の4頁分(複製)／仙台名家書簡支倉六衛門墨蹟(木版)／サン・ファン・パウティスタに交付された朱印状(推定復元)ほか	



『伊達政宗遣欧使節記』(イタリア語版) 使節船「サン・ファン・パウティスタ」号模型



オルテリウス『鞆鞆日本図』



船大工道具(かんな)

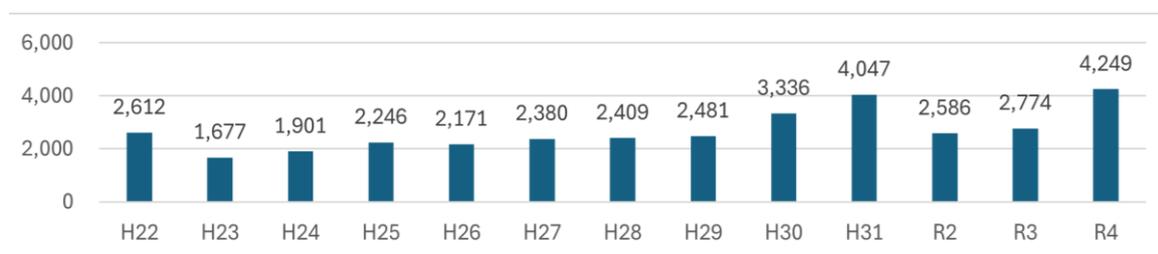
渡邊八郎尉門「慶長遣欧使節船復元建造工事風景」

1 宮城県及び石巻市の観光客の状況

宮城県の観光客入込数は東日本大震災により大きく減少したが、国内外から多くの支援を受けながら復旧・復興に取り組むとともに、様々な観光振興事業を実施してきた結果、2019（令和元）年には過去最高となる6,796万人を記録した。その後、新型コロナウイルス感染症の影響により2020（令和2）年に3,945万人に落ち込んだが、2022（令和4）年には5,724万人にまで回復した。

とりわけサン・ファン館が立地する石巻市は東日本大震災の最大の被災地であったが、地域の総力を挙げて観光面でも復旧・復興に取り組んできたことにより徐々に回復し、2018（平成30）年には震災前の2010（平成22）年の観光客入込数を超えた。震災により休館していた施設が再開したことに加え、「いしのまき元気いちば」など新たな観光施設がオープンしたことも良い影響を及ぼした。

震災からの復旧・復興とともに増加傾向にあった市内の観光客入込数は、新型コロナウイルス感染症の影響により2020（令和2）年は250万人に減少したものの、2022（令和4）年には過去最高となる420万人を突破した。



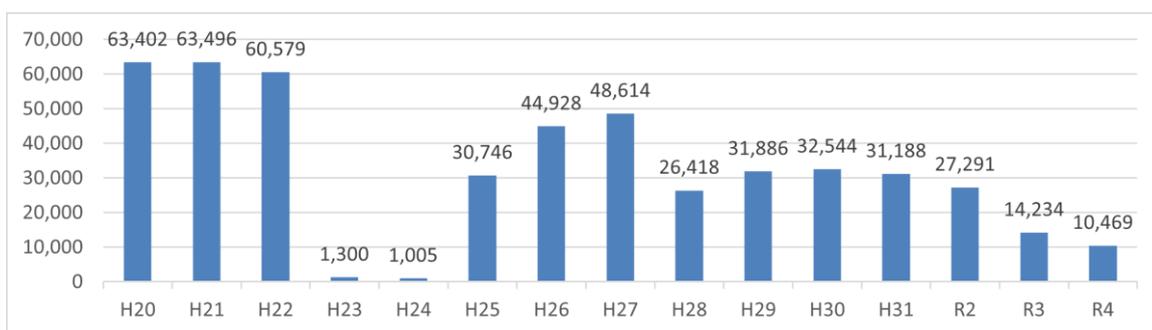
出典：石巻市統計書 観光客入込数調べ（推計）／単位：千人

2 サン・ファン館の来館者数

サン・ファン館の総来館者数は、震災前は約6万人であったが、震災により大きく落ち込んだ。2013（平成25）年の再開館後は回復傾向にあったものの、復元船の老朽化により2016（平成28）年にドック棟と復元船への立ち入りが禁止となると、大幅に減少した。

その後、展示や企画事業の拡充により、2019（令和元）年の半ばまで増加傾向にあったが、2020（令和2）年のコロナ禍や2021（令和3）年の復元船の解体等の影響により、再び減少傾向に転じた。

※2022（令和4）年11月から2024（令和6）年10月末までリニューアル工事のため休館



サン・ファン館来館者数調べ／単位：人

[参考]

2021（令和3）年の来館者のアンケートによると、来館者の年代別で最も多いのは40代、次いで小学生、50代、60代であった。居住地別では、全体の90%以上は石巻市外からであり、県外からの来館者は約35%であった。

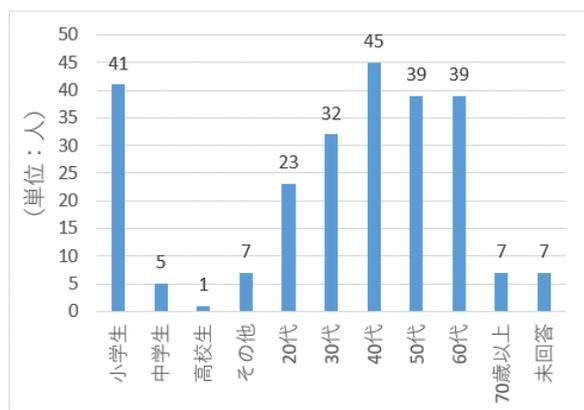


図 サン・ファン館の来館者の年代

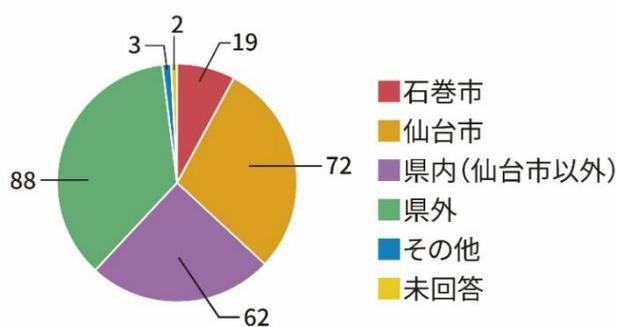


図 サン・ファン館の来館者の居住地

また、全体の来館者のうち84%が車による来館であった。ついで多いのが鉄道利用による来館者で7%であったが、そのうちの半数が鉄道を利用後にレンタカーを利用して来館しているため、ほとんどが車を利用しての来館であった。路線バスを利用して来館した人は3.6%、その他の記載としては、徒歩や自転車などであった。

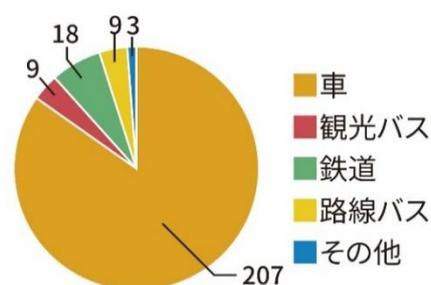
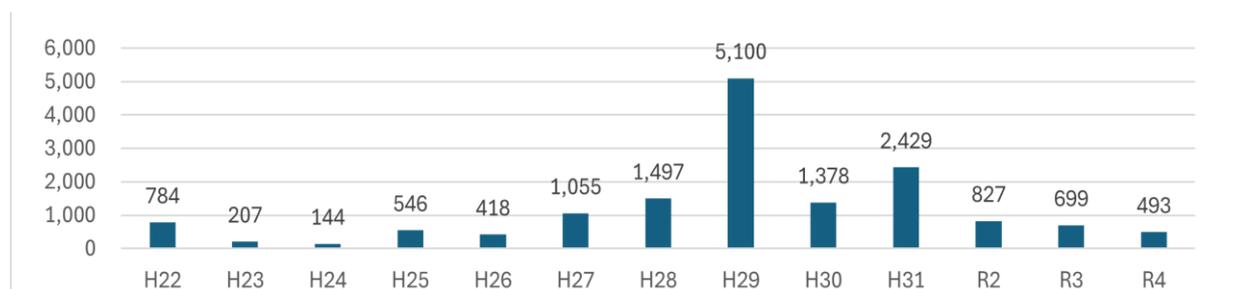


図 サン・ファン館への交通手段

3 インバウンドの状況

石巻市における外国人宿泊者数の推移についてみると、震災前の2010（平成22）年は784人であったのに対し、2015（平成27）年には1,000人を超えた。

2017（平成29）年及び2019（令和元）年はリボンアート・フェスティバル（RAF）本祭の開催により増加したものの、2020（令和2）年以降は新型コロナウイルス感染症の影響等により1,000人を割り込んでいる。



出典：石巻市統計書 観光客入込数調べ／単位：人（推計）

一方、石巻市における国籍別の外国人宿泊者数は集計されていないことから、宮城県における国籍（出身地）別外国人延べ宿泊者数を参考にする。

2017（平成29）年～2019（令和元）年及び新型コロナウイルス感染症が流行し観光客が激減した2020（令和2）年においても、韓国・中国・香港・台湾の4か国・地域からの宿泊者数の割合は60%以上を占めており、特に、台湾は毎年36%～45%と高い割合で推移している。

その後、新型コロナウイルス感染症の影響により仙台空港の国際線が全休していたが、2023（令和5）年から徐々に運航が再開され、令和6年5月31日現在で台北便が週17往復、ソウル便が週7往復、大連／北京便が週2往復、上海便が週2往復運航しており、インバウンドの回復が見込まれる。

4 ターゲットとする来訪者

課題及び取組強化事項を整理する上で、下記の通りターゲットを設定する。

(1) 若者世代

サン・ファン館の来館者の年代はアンケートによると40代が最も多く、次いで50・60代が多いことから、これまで来館が少なかった若者世代に対し、景観を活かしたミュージアムカフェの充実などによって、本計画で重点的なカバー・アプローチを行う。

当該世代はデジタルに明るく、SNSや動画サイトなどで自ら情報を発信する傾向にある。また、若者世代は団体よりも数人もしくは個人での行動が多いため、きめ細やかなニーズに合わせた対応について近隣施設と情報交換しながら誘客を促進していく。一方で、大学や高校の教育旅行の誘致にも力を入れ、その後の再訪にもつながるような取組を実施していく。

今までサン・ファン館を訪れなかった若者世代の来訪を呼び込むことで、博物館利用者の裾野を広げられるようにする。昨今は広告や情報誌だけでなく、Googleビジネスプロフィールの口コミを見て来訪するパターンも多い。特に外国人観光客はそれが顕著な傾向にある。情報発信・拡散者となりうる若者世代を誘客し、口コミ情報を拡散してもらうことにより更なる利用者の増加を図る。

(2) ファミリー世代・家族連れ

サン・ファン館のアンケートでも40代、50代の来館者が多い状況にあることから、親も子どもも楽しめる帆船に関するロープワークや木工教室、ヨット体験などの体験コンテンツの充実により、リニューアル後も引き続き来館の中心となるよう積極的に働きかけていく。また、歴史・文化以外にも震災の教訓や環境保全などの学びを提供できる学習施設としての側面もアピールしていく。

(3) 石巻に来訪する台湾・中国・韓国人（インバウンド）

宮城県への外国人訪問客は東アジア地域（韓国、中国等）が多く、なかでも台湾が最多（45%）である。短期的には、宮城県への訪問実績のある東アジア地域からの来館者増加を目指し、長期的には、慶長遣欧使節との関係が深い国々（メキシコ、スペイン、イタリア等）からの来館者増加を目指していく。

◎海外からの観光客に対しては、下記の観点を踏まえてアプローチしていく。

震災被害と復興	特に台湾では東日本大震災の被害への多大な支援があり、震災復興への関心が高い。館としての復興に加え慶長遣欧使節と災害の歴史を知ってもらう。
キリスト教文化	支倉常長は海外で洗礼を受け、ローマ教皇にも謁見したキリシタンである。仙台藩では彼の帰国後キリシタン弾圧が激化した。キリスト教関連の史跡は韓国からの巡礼者が近年増加していることから、彼の信仰や文化に関心をもってもらう。
モチーフとしての「龍」	龍は中華圏で好まれるモチーフである。「独眼竜」伊達政宗とも関連し、展示物にも龍の像があることから象徴的に話題を集めたい。
オルレ（トレッキング）	韓国発祥のオルレをはじめとしたトレッキングが近年人気である。当館の設備や景観を生かし、参加者に立ち寄ってもらうスポットとしての整備を図る。

3-1-3. 他の文化資源保存活用施設との比較

1 参考とした他の文化資源保存活用施設

(1) 仙台市博物館（宮城県仙台市青葉区川内26）

同じ宮城県内の博物館であり、主要な展示テーマの一つとして慶長遣欧使節を扱っている点で類似性がある。一方、仙台市中心部に位置する館であることから立地環境を対比する。

(2) 奥松島縄文村歴史資料館（宮城県東松島市宮戸字里81-18）

同じ石巻圏域、さらに海に面した博物館であることからアクセス、立地などで類似性がある。また、体験コンテンツの醸成に力を入れており、充実のための指針として比較する。

	サン・ファン館	仙台市博物館	奥松島縄文村歴史資料館
①所蔵資料	使節船「サン・ファン・バウティスタ」号の復元船を中心に展示／所蔵資料は1,000点未満	国宝「慶長遣欧使節関連資料」を所蔵している 総資料数10万点	隣接する縄文時代の遺跡「里浜貝塚」から出土した縄文土器などを所蔵。
②展示テーマ	慶長遣欧使節及び使節船「サン・ファン・バウティスタ」号／その他海洋文化など	仙台市の通史を中心に、重要テーマとして慶長遣欧使節を扱う／他美術、考古、民俗など	里浜貝塚に暮らした縄文人の知恵と生活がテーマ
③施設規模	延床面積 4,476 m ² （展望棟・ドック棟・エスカレーター）	延床面積 10,800 m ² （総2階）	延床面積 489 m ²
④景観	石巻湾を見下ろす高台に位置し、空と海を眺められる県内屈指のビュースポット。	仙台城の旧三の丸にあたり、付近は散策路などが整備されている。	周囲は「さとはま縄文の里史跡公園」として整備され、手つかずの自然が残されている。
⑤リニューアル状況	2024年10月末リニューアルオープン／新たな復元船の設置に加え、展示内容は全て一新している。	2024年4月リニューアルオープン／展示は全て変更されたわけではなく既存の内容もある。	2009年展示内容の一部をリニューアル／2024年度～展示室・文化財収蔵庫増築予定。
⑥体験コンテンツ	以前は「キャプスタン体験」「ハダ打ち体験」など独自性のあるコンテンツが整備され、常設で体験ができた。津波被害でワークショップ及び器具の大多数が流出し、その後はソフト事業の範疇で体験コンテンツを継続している。	常設の体験コーナー「プレイミュージアム」を設置。（甲冑の着付け/貝合わせ/郷土玩具等） 企画展に合わせた体験企画も用意している。	縄文時代の暮らしをテーマに常設体験を所有。土日は予約不要・低価格で体験ができる（勾玉作り/鹿角ストラップづくり/縄文土器づくり/火起こし体験等）。また、季節ごとに付加価値の高い特別体験（カキの養殖体験/塩づくり/縄文料理教室）等も実施している。

	サン・ファン館	仙台市博物館	奥松島縄文村歴史資料館
⑦インバウンド対応	リニューアルにあたり各展示パネルに多言語用2次元コードを配置（日/英/簡/繁/韓）／パンフレット（施設案内）は日/英/簡/繁/韓を整備（一部デジタル）／WEBサイトは日本語＋多言語LP整備中	展示は一部英/簡/韓の表記あり。リニューアルにあたり多言語パンフレット整備（日/英/簡/繁/韓）。WEBサイトは自動翻訳も含め8か国語対応（日/英/簡/繁/韓/スペイン語/ロシア語/フランス語/ベトナム語）	パンフレットは4か国語対応（日/英/簡/韓）WEBサイト日本語のみの対応
⑧アクセス	電車：最寄りのJR 渡波駅から徒歩20分／車：無料駐車場300台、大型駐車場／バス：10台程度利用可能	電車：仙台市営地下鉄「国際センター前駅」下車徒歩8分／車：無料駐車場50台、大型駐車場5台完備	電車：JR 仙石線「野蒜駅」から徒歩80分車10分／車：無料駐車場30台、大型駐車場利用可

2 他施設と比較しての分析

(1) 展示資料

仙台市博物館や奥松島縄文村歴史資料館が当時の歴史資料など豊富な展示品があるのに比べ、サン・ファン館においては収蔵資料自体が少ない（国宝となっている絵画等の資料は仙台市博物館が所蔵）。

(2) 展示テーマ

仙台市博物館は国宝「慶長遣欧使節関連資料」を所蔵しており、現物を展示できる大きなメリットがある。サン・ファン館では実物資料の展示は難しいが、慶長遣欧使節出帆の地石巻という立地と「船」というテーマから独自性のある展示が可能である。

これまでも、石巻の地域性を活かした展示を行ってきた。使節出帆にかかわる史跡（月浦・雄勝等）とその研究史を中心に、浜それぞれの歴史や暮らしを育んできた牡鹿半島の文化、港町として発展してきた石巻の造船・海運の歴史などである。また、東日本大震災の被災経験を踏まえ、災害史・防災関連の事業もテーマとして設定が可能である。

加えて、美術作品のテーマにしやすいという場地的特徴がある。慶長遣欧使節の波乱の旅が示すドラマ性、使節が訪問した各国の文化そのものは仙台市博物館でも紹介を行っているが、サン・ファン館からの風景（青い海と帆船の姿）が合わさることでビジュアルや色彩的な魅力が生まれる。

これらは作品のテーマとして創作にも影響を与え、これまでの事業においても長年子どもたちの絵画コンクールを主催しているほか、国内外の画家、作家との連携企画などを積極的に行ってきた実績がある。

◎過去の主な展覧会のテーマ

テーマ	内容
慶長遣欧使節	慶長遣欧使節の旅路／伊達政宗の国造りと使節派遣／慶長遣欧使節に関わる文化（文学・音楽・劇など）／使節船出帆地にかかる研究史
民俗	牡鹿半島の人々の生業や生き物／海の信仰／海と船に関する怪談
歴史（地域史）	海と商人の物語（全国の「日和山」の歴史）／石巻と千石船の歴史／仙台藩の洋式帆船（サン・ファン号・開成丸）／漂流船若宮丸と乗組員に関する展示／毛利コレクション展／古代の石巻（縄文土器の紹介）
美術・工芸	帆船模型展（帆船模型同好会などと共催）／メキシコ在住日本人画家の作品展／慶長遣欧使節ゆかりの地をめぐる写真展／牡鹿半島を舞台とした絵本の原画展
常設展示を補足する展示等	復元船の建造や関わった人々を紹介する展示／船大工とその道具に関する展示／協会の歩みを紹介する展示／復元船船内展示物を深掘する展示／寄贈資料展（帆船模型・工芸・絵画等）／航海術
震災	震災からの復興／災害及び自然との共生／文化財レスキュー展



(3) 建物の特徴

仙台市博物館、奥松島縄文村歴史資料館ともに室内の展示スペースが一つの建物にまとまっており、行き来しやすい特徴がある。

一方、当館の建物は元々の地形を生かして建てられ、自然との調和をテーマにした個性的な建築である。高台の展望棟と海沿いのドック棟が存在し、それらをつなぐエスカレーターは約50メートルの高低差がある。ガラス張りの窓から海と空、そして復元船を眺めながら移動できるという他館にはない特徴がある。

また、隣接の石巻市サン・ファン・バウティスタパークはイベント広場・テナントスペース・大型駐車場等を有しており、幅広い利活用が可能である。



(4) 景観

サン・ファン館は石巻湾を見下ろす高台に位置し、空と海を眺められる石巻屈指のビュースポットである。海を見下ろす景観は、県内の博物館としては珍しい。施設の造りは自然に溶け込んでおり、豊かな風土を間近に感じられる立地である。展望棟では屋内からも空と海を眺望でき、休憩などにも最適である。また、帆船に関する展示を行うドック棟は海に面しており、見学しながら潮風と陽光を肌で感じられる。

(5) 展示リニューアル

仙台市博物館は2024（令和6）年4月にリニューアルオープンを迎え、奥松島縄文村歴史資料館も今後、展示スペースの拡充が予定されている。ただ、2館とも展示内容は一部の更新にとどまっている。

サン・ファン館は2024（令和6）年10月にリニューアルオープンし、展示内容も全面リニューアルしており、過去に来館経験のある方にもPRできる。新たな復元船の仕様も注目されており、引き続き各種報道がされるなど話題性が高いのが強みであるといえる。

(6) 体験コンテンツ

仙台市博物館や奥松島縄文村歴史資料館では常設の体験スペースがあり、来館者が気軽に体験コンテンツに触れられるようになっている。サン・ファン館は他館に比べ、常設化できる安定したコンテンツ及び器具が不足。特に、これまで復元船が担ってきた帆船文化や建造技術に関する要素を持つ体験については充実が求められる。

一方、強みとして、ヨット乗船など海そのものを体験会場として活用できること、広大な敷地を活用した大人数での体験事業が可能である。また、慶長遣欧使節の歴史に加え、帆船文化や海洋文化など幅広いテーマでの体験事業を実施できることも長所である。

(7) インバウンド対応

仙台市博物館ではリニューアルに合わせ、5か国語のパンフレットを整備するなど多言語対応を行っている。また、WEBサイトは8か国語に対応するなど間口が広く、外国人の方が興味をもちやすくなっている。奥松島縄文村歴史資料館については4か国語のパンフレットを制作し、アジア圏からの来館者への対応を行っている。

当館では、これまで日本語と英語版のパンフレットしか作成していなかったが、展示リニューアルにあわせて館内展示の多言語解説（英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語）を整備したほか、多言語パンフレット及び多言語LP（ランディングページ）も整備中である。

(8) アクセス（立地条件）

仙台市博物館は、地下鉄でのアクセスが便利な反面、市街地に近く駐車台数が限られることから車でのアクセスがやや不便である。奥松島縄文村歴史資料館は、東松島市の中心部から離れたところに位置しており、最寄り駅から遠く、アクセスという点では全体的に不便と言える。

当館は電車でのアクセスは不便だが、普通車のほか大型バスの受入体制が整っている。駐車場の管理員が常駐しているほか、設備として無料立体駐車場（約300台駐車可）・駐輪場・大型駐車場（大型バス10台駐車可）が整備されている。

現在、石巻駅からサン・ファン館最寄りに停車するバスは土日に1日1本という状況だが、今後館の魅力を向上し入館者が増えることで増便の呼びかけが可能である。

課題1 中核展示物の原寸大復元船がなくなり集客力が低下している

サン・ファン館の集客の目玉であった原寸大の復元船が2022（令和4）年に解体となり、施設の集客力及び認知度が大きく低下した。

400年前の航海の様子を想起させるような乗船体験が大きな売りとなっており、観光の目玉として世代や国内外を問わずに満足してもらえる価値があったためである。



画像：解体前の復元船と来館者の様子

課題2 慶長遣欧使節に関する現物資料が不足している

慶長遣欧使節に関する現物資料の所蔵数が少ない。これは以前からの課題であったが、復元船の解体により歴史展示の比重が大きくなり、展示品不足による企画の幅の狭さなどが顕著になった。

以前は復元船があったため、来館者は「原寸大の船を見に行く」という大きなきっかけがあり、そこから慶長遣欧使節の展示を見てもらうという流れがあったが、解体後は歴史などに興味がない層の関心を引きにくくなっている。

課題3 体験コンテンツが不足している

1996（平成8）年のサン・ファン館開館当時は、ドック棟に常設のワークショップが整備されていた。船大工の技術を体験する「ハダ打ち体験」や帆船文化に全身で触れられる「マスト（ロープ）のぼり体験」「キャプスタン（巻き上げ機）の綱引き体験」などがあり、復元船展示との相乗効果もある体験コンテンツは世代を問わず好評であった。

しかし、2011（平成23）年の東日本大震災の津波により設備は全て流出し、建物も使用不可となった。2013（平成25）年の再開館以降は企画事業の一環として展望棟の一角などで体験事業を行ってきたが、ハード面の整備が十分にできず、建造技術や帆船文化といった魅力的なテーマを活かせていなかった。

今回のリニューアルでは慶長遣欧使節の歴史を学ぶための分かりやすい展示が整備されており、今後はそれに加えて、これまで原寸大復元船が担ってきた建造技術や帆船文化などのテーマについて、五感を使って学ぶことでより深い理解促進につなげるための体感・体験コンテンツを充実させる必要がある。



画像：キャプスタンと綱引き体験



画像：マスト（ロープ）のぼり体験

課題4 観光客に向けた情報発信・サービスが不足している

観光客に対する情報発信力が弱い。特にインバウンド対応としては、WEBサイトの多言語化も進んでおらず、海外からの来訪者が館の情報を入手しにくい状況である。

また、サン・ファン館に来館するまでの交通案内が不足しているほか、入館料の支払いでキャッシュレス決済が進んでいない。コインロッカーや授乳室などの館内設備も更新できていない状況である。

課題5 館内の飲食提供設備が活かされていない

サン・ファン館の開館当初は展望棟に景観を活かした飲食施設（レストラン）があり飲食を提供していたが、現在は営業を行っておらず老朽化した設備だけが残っている。飲食提供の有無については、観光客からの問い合わせが多く需要があるにもかかわらず対応ができていない。

基本的な方向性の軸となる文化観光拠点計画のコンセプト

夢をのせ、海をわたり、世界をひらく

▶ 政宗の夢・私の夢

▶ 眼下の広大な海・地球

▶ 異国・新しい場所

慶長遣欧使節が成し得た史実と価値を若者や家族連れ、インバウンド層などのターゲットに分かりやすく伝え、当時の人々の行動に思いを馳せ、「様々な困難に対し夢と希望を持って前に進んでいきたい」という想いを来館者と共有するため、上記のコンセプトを設定する。

事業の推進にあたっては、このコンセプトに基づく価値観を来館者へ効果的に伝えられるよう、関係者間で情報共有を徹底していく。

慶長遣欧使節が示す価値（その固有性・真正性）と豊かなストーリー

政宗は国を豊かにしようとした。仙台藩領の地理的利点を活かし、太平洋経由で貿易を行うため使節船を建造し、外交使節を派遣した。

勇気・知識・技術・団結心。

それらを組み合わせないと船はできない。航海もできない。

あらゆる要素を結集して太平洋を渡ったということ。

慶長遣欧使節は、正式な外交使節団として、世界の中心であるスペイン・ローマに訪問し、交渉を行った。

使節を率いた支倉常長は現地でも高い評価を受けた。

そして、そのストーリーの延長線上にサン・ファン館があり、歴史の当事者として来訪者が立っている。

コンセプトとストーリーに基づいた、ミュージアムの目指すべき姿

慶長遣欧使節と使節船が織りなすあらゆる要素やストーリーに触れてもらうことで、好奇心・挑戦心がかきたてられ、自分の世界を広げることができる施設

★事業の推進に当たって踏まえたい観点

- ・慶長大津波による被災を乗り越えて出帆した使節船と、東日本大震災による被災を乗り越えた現代のサン・ファン・パウティスタ号を重ね合わせ、慶長遣欧使節をモチーフとしながらも、困難に対して夢と希望を持って前に進むことの普遍的な価値を伝えていく。
- ・慶長遣欧使節が出発した石巻地域において地域全域を襲った津波の被害があっても、連綿と生き続けてきた海洋文化・独自の歴史風土に光を当てながら、その価値も発信していく。

取組強化事項1：展示コンテンツの強化（課題1・2関連）

慶長遣欧使節に関する現物資料の所蔵数が少ないという課題を踏まえ、展示内容の充実を図る。仙台市博物館で所蔵している国宝「慶長遣欧使節関連資料」等の造作物（複製）の製作を行い、常設展示を補強するほか展覧会等でも活用していく。

加えて、石巻地域の文化的価値を発信するための展覧会開催、展示内容を深く解説する図録の作成など、使節の意義を伝えるための事業を展開する。

また、来館者の動向・ニーズを適切に把握しながら、慶長遣欧使節等の文化的・歴史的意義をより深く伝えるため、さらなる展示の追加更新・充実化を図っていく。海外からの来訪者に対応するため、観光庁「HowTo 多言語解説文整備」をもとに、ネイティブや専門家等の助言を踏まえた解説も充実していく。

取組強化事項2：体験コンテンツの強化（課題3関連）

体験事業に関する設備及びコンテンツが不足しているという課題を踏まえ、帆船文化に関連する様々な要素に触れることができる体験の提供を目指す。

体験コンテンツは性別・年代を問わず身体を使って楽しみながら学ぶことから、石巻地域で育まれた船大工の技や木の文化を体験してもらうための木工教室や、船乗りの生活や知恵を学ぶためのロープワーク体験など、当館ならではの独自性のある企画を実施し、来訪者の満足度を高める。

また、多くの人になじみのある食とアートをテーマに、慶長遣欧使節に関連する工芸や食文化の体験企画事業や、当館でしか体験できない特別感のあるプログラムの開発を重点的に行っていく。

取組強化事項3：インバウンドを含めた情報発信力・サービスの強化（課題4関連）

インバウンド対応として、観光庁「How To 多言語解説文整備」をもとにしたWEBサイトの多言語化や多言語パンフレットのデジタル化を行い、情報発信力を強化していく。

また、サン・ファン館までの交通案内を充実させていくほか、キャッシュレス決済をはじめとした館内サービスの強化に取り組んでいく。

取組強化事項4：景観・自然を活かしたミュージアムカフェの整備（課題5関連）

サン・ファン館は牡鹿半島と太平洋を一望できる高台にあり、イタリア庭園風のサン・ファン・バウティスタパークに囲まれた石巻地域の観光スポットとなっている。館内エントランスからラウンジにかけてガラス張りになっており、屋内からも海を見下ろすことができる。さらにドック棟は海に面しているため、より海を間近に感じられる。この建物の構造と立地を活かし、ミュージアムカフェを整備し、観光コンテンツとしての魅力向上を図っていく。



3-4. 地域における文化観光の推進への貢献

(1) 石巻地域への来訪者の増加

文化観光を基軸にした事業実施により、インバウンドを含む観光客が増える。飲食や体験コンテンツなどの魅力的なアクティビティの提供によってホスピタリティの向上が促進され、来訪者の満足度が高まり石巻地域へのリピーターが生まれる。

(2) 石巻地域における連携事業者の拡大と収益化

文化観光拠点計画を軸にした新しいサン・ファン館の目指す姿、文化資源の魅力向上の取組が、石巻市民をはじめとした関係内外（地域住民、企業、教育機関、研究機関等含む）に共有されはじめ、関わる民間事業者が増える。事業への参画により、収益化が図られる。

また、令和5年度に石巻市内で拠点計画の認定を受けた「石ノ森萬画館」と、地域が抱える共通の課題を踏まえ、連携を進める。お互いの施設の特徴を活かしながら展示・情報発信・周遊等の取組を図っていくことで、持続的に来訪者が増加するなどの相乗効果が生まれる。

(3) 石巻地域におけるブランド力の向上

文化観光にかかわる民間事業者の中に、慶長遣欧使節・使節船（帆船文化）の価値が浸透し、地域への愛着や誇りが生まれる。さらに、文化資源として活用するという持続的な意識が広がり、事業として展開され、文化資源を中核とした石巻地域におけるブランド力の向上が図られる。

3-5. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出

(1) サン・ファン館における好循環の創出

本計画の取組の実施により、展示の魅力向上や充実が図られるほか、体験コンテンツが造成されることで、サン・ファン館の来館者が増加し、入館料の増収及びショップやミュージアムカフェの売上げの増加など、館への経済効果が期待できる。

さらに、それらの収入を展示・コンテンツの磨き上げや新たな展覧会の開催などに再投資することで、来館者の満足度向上を図り、持続的な館の運営と事業の実施を担保する。

(2) 石巻地域における観光振興、地域活性化の好循環の創出

サン・ファン館への来館・体験をきっかけに、周辺文化観光施設への周遊観光や石巻地域の特色であるマリンアクティビティへの参加者が増えるだけでなく、地域の飲食や宿泊施設、物販の店などにも立ち寄る人が増加することが期待される。

こうした地域全体における人の往来・消費活動の拡大により収益が生み出され、街の賑わいとさらなる事業の展開につなげていく。

また、地域への来訪者が増えることにより、受入体制の充実を図りながら、石巻地域を何度も訪れていただけるよう関係団体や民間事業者等全体でホスピタリティの向上と観光振興に取り組むことで、地域が活性化する好循環が創出される。

4. 目標

目標①：入館者（課題1・2・3・4関連、取組強化事項1・2・3・4関連）

目標値の設定の考え方：

- ・2022（令和4）年11月から展示等のリニューアルのため休館していたが、2024（令和6）年10月末にオープンした。
- ・初年度の令和6年度は、ドック棟展示の観覧と復元船の乗船が可能であった2008（平成20）～2010（平成22）年における11月～翌年3月末の入館者数（平均値）を参考に設定。
- ・令和7年度には、1年間を通してドック棟展示の観覧と復元船の乗船が可能であった震災前の2009（平成21）年の実績値以上になるよう目標を設定し、最終年度である令和10年度には7万4千人を目標とする。
- ・体験コンテンツについては、事業の効果的な実施のため事業ごとに参加人数や収入等の評価指標を設定し、PDCAサイクルの確立を目指す。

把握方法：サン・ファン館エントランスの券売機の発券枚数及びカウンターにより把握する。

年度	実績		目標				
	H21年度 (震災前)	R元年度 (コロナ前)	6年度 (※10月末開館)	7年度	8年度	9年度	10年度
目標値	63,496人	31,188人	17,000人	65,000人	68,000人	71,000人	74,000人
1-①：慶長遣欧使節の意義を伝えるコンテンツ整備事業	-	-	-	造作物の製作	造作物の製作	造作物の製作	造作物の製作
1-②：展覧会及び関連企画の開催事業	-	-	展覧会（1回）の開催	展覧会の開催	展覧会の開催	展覧会の開催	展覧会の開催
2-①：帆船と航海に関する体験企画事業の整備と実施	-	-	-	体験企画の実施	-	体験企画の実施	体験企画の実施
2-②：天文と航海術に関するプラネタリウムコンテンツの制作	-	-	-	-	機器の整備／コンテンツの制作	-	-
2-③：常設展示追加・更新事業	-	-	-	-	-	常設展示内容の追加・更新	常設展示内容の追加・更新

目標②：サン・ファン館の満足度（課題1・2・3・4関連、取組強化事項1・2・3・4関連）

目標値の設定の考え方：

- ・ドック棟展示の観覧と復元船の乗船見学が可能であった震災前の2009（平成21）年のアンケートでは、「見学しての満足度」について、満足、どちらかといえば満足、ふつう、どちらかといえば不満、不満の5段階で調査しており、満足と回答した割合は64%であった。
- ・再開館の初年度である2024（令和6）年度はそれを上回る65%を目標とし、計画最終年度である令和10年度には80%となるよう目標を設定する。
- ・体験コンテンツについては、事業の効果的な実施のため事業ごとに参加人数や収入等の評価指標を設定し、PDCAサイクルの確立を目指す。

把握方法：来館者に対するアンケート調査により把握する。

年度	実績		目標				
	H21年度 (震災前)	R元年度 (コロナ前・ 復元船乗船禁 止中)	6年度 (※10月末開館)	7年度	8年度	9年度	10年度
目標値	64%	38%	65%	68%	72%	76%	80%
1-③：常設展示図録の製作	-	-	-	-	-	図録製作・発行	-
1-⑤：食と音楽による高付加価値コンテンツの造成・提供事業	-	-	-	-	-	-	コンテンツの整備
3-①：サン・ファン館利用に係る利便性向上事業	-	-	利用案内の充実・接遇向上	利用案内の充実・接遇向上	利用案内の充実・接遇向上	-	利用案内の充実・接遇向上
3-②：石巻市サン・ファン・パウティスタパークの利便性向上	-	-	-	-	環境整備・コンテンツ整備	環境整備・コンテンツ整備	環境整備・コンテンツ整備
4-①：ミュージアムショップ商品開発事業（自主事業）	-	-	ショップ新商品の開発	ショップ新商品の開発	-	-	-
6-①サン・ファン館の利便性向上のための整備	-	-	設備整備	設備整備	設備整備	-	設備整備

目標③：サン・ファン館の外国人来館者数（課題1・4 関連、取組強化事項1・4 関連）

目標値の設定の考え方：

- ・これまでサン・ファン館では外国人来館者数を把握していなかったため、サン・ファン館休館直前の令和元年度における石巻市の外国人宿泊数（2,429人）／宿泊観光客入込数（246,599人）の割合（1%）をサン・ファン館の入館者数に反映し推計値を算出した。
- ・今後のインバウンドの回復については見通すことが難しい状況ではあるものの、震災・コロナ・RAF等の影響がない平成27～平成30年度における外国人宿泊者数の平均値が約1,300人であることも参考にしつつ、全来館者に占める外国人来訪者の割合を、コロナ前の1%から、計画期間中に2%程度まで増加させることを目指すこととする。
- ・外国人来館者については、計画開始から10年目となる令和15年度には、コロナ前（R元年度）の約6倍となる2,000人を目指す。

把握方法：入館時にヒアリングを行い、把握する。

年度	実績	目標：外国人来館者数（総来館者数に対する割合）				
	R元年度 （推計値）	6年度 （※10月末開館）	7年度	8年度	9年度	10年度
目標値	312人	150人	780人	950人	1,200人	1,480人
1-④：食とアートに関する体験企画事業の開発実施		-	-	体験企画の開催	-	体験企画の開催
3-③：サン・ファン館への交通案内の強化		-	WEB・看板等 交通案内の整備	-	-	-
5-①：WEB サイトリニューアル事業	-	WEB サイト 更新・多言語化	WEB サイト リニューアル	-	-	WEB サイト 更新
5-②：多言語パンフレット製作事業	-	多言語パンフレット 製作・発行	多言語パンフレット 拡充	-	-	-

目標④：ミュージアムカフェの利用者数（課題 5 関連、取組強化事項 4 関連）

目標値の設定の考え方

- ・サン・ファン館では以前飲食施設（レストラン）が営業されていたが、利用者数は計測していなかった。
- ・同じ県立施設である宮城県美術館のカフェ利用者／入館者数の割合（18％）を参考に、サン・ファン館の入館者から目標値を設定する。
 ※初年度は準備及びテスト運営期間とし、本格的な運営は令和7年から開始する。
 ※実績欄は目標値を設定するための想定値として設定（来館者数×18％）したもの。

把握方法：カフェの入場利用者数をカウンターで計測する。

年度	実績	目標：カフェの利用者数				
	R元年度 (想定値)	6年度 (※10月末開館)	7年度	8年度	9年度	10年度
目標値	5,614人	2,700人	11,700人	12,240人	12,780人	13,320人
4-②：ミュージアムカフェにおける飲食の提供・商品開発事業	-	-	-	ミュージアムカフェの運営・商品開発	ミュージアムカフェの運営・商品開発	-
6-②：ミュージアムカフェの設置・厨房設備の整備	-	ミュージアムカフェの準備	ミュージアムカフェ・厨房設備の整備	ミュージアムカフェの充実	-	-

5. 目標の達成状況の評価

PDCA サイクルによる検証と評価体制の構築

拠点計画の推進にあたっては、取組の進め方や必要な施策について、PDCA サイクルにより検証を毎年行いながら進める。サン・ファン館における来館者数、来館者アンケート調査により、目標の達成状況を年度ごとに確認する。確認にあたっては、事業実施主体のみならず周辺施設や関係事業者とともに検証を行い、次年度以降の事業の内容や実施方法について改善を図る。

3年後に行う中間評価は、令和6年度から令和7年度の2年間に実施した事業について効果を検証し、計画の終了時に拠点計画に定めた目標値を達成できるよう、共同申請者との情報共有を行って効率的な事業実施を図る。

6.文化資源保存活用施設

6-1. 主要な文化資源についての解説・紹介の状況

6-1-1. 現状の取組

施行規則第1条第1項第1号

文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介

(1) 常設展示の全面リニューアル

これまで「慶長使節展示室」では、慶長遣欧使節の出帆から帰国までの歴史についてパネルによる説明のほか、旅のハイライトとなる重要な場面についてはジオラマ等を用いて当時の様子を再現するといった展示を行ってきた。

今回の拠点計画事業に先立って、常設展示の魅力向上のため令和4年度から展示の全面改修を実施し、令和6年10月にリニューアルオープンした。

慶長遣欧使節が出帆した背景を深く知るため、伊達政宗が治めた17世紀初頭の仙台藩の状況や大航海時代の世界史の動きなどについて、文字のみに頼らず大型のイラストや地球儀等により伝える。

月浦からの使節船「サン・ファン・パウティスタ」号の出帆シーンや旅のハイライトであるローマ教皇謁見シーンはレリーフで再現し、造作物と映像を組み合わせたプログラムとなっている。館内シアターの映像も一新し、アニメーションと実写、CGを組み合わせた最新の手法を用いているほか、多言語による字幕版の映像も整備した。

また、沿岸部のドック棟ではガレオン船の建造と航海にスポットを当て、大型グラフィック解説のほか木材や道具などの資料も合わせて紹介する。

他のテーマとしては、慶長大津波による被災を乗り越えて太平洋を横断した慶長遣欧使節の意義や、平成の時代に県内外の多くの支援を得て復元船を建造した人々の熱い思い、復元船の東日本大震災からの復旧・復興過程などがあり、勇気や知恵を持って挑戦する姿勢を学ぶことができる展示となっている。

(2) 1/4スケール復元船の展示等

令和6年度の展示リニューアル事業では新たに復元船（縮尺1/4、FRP製）を製作。ドック棟の中心部に展示し、意匠を忠実に再現し、全方位から船体を確認できるようにしている。

また、AR（拡張現実）技術を活用し帆を張った姿を再現するほか、船内の機能などを紹介するコンテンツを導入した。さらに、以前の復元船の部材（メインマストなど）も展示し、原寸大の迫力を伝える。



情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介

(1) サン・ファン号をVR動画で紹介するシアター映像及び操作体験

復元船を高精細で撮影した写真データと高精度3次元計測から取得したデータをもとに、CGで忠実に再現したVR（バーチャルリアリティ）コンテンツを公開。これにより、復元船内の様子と、実際には見ることのできない上空からの様子を疑似体験できる。



(2) ネットワーク環境の整備

上記の展示を来館者に最大限活用してもらえよう、館内全体を範囲とするネットワーク環境（Wi-Fi）を構築。合わせて貸出用の情報端末機器も整備している。

外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介

(1) リニューアル展示内容の多言語化

2024（令和6）年度に展示リニューアル事業を行い、観光庁「HowTo多言語解説文整備」に沿って多言語化整備を行った。展示物の解説パネル等に2次元コードを表示し、スマートフォン等で4か国語（英／簡／繁／韓）の解説を見ることができる。

また、シアター映像については、日本語によるナレーションに加え、宮城県内の博物館では初めてとなる4言語対応の字幕付き映像を整備している。

(2) パンフレット・翻訳機等の活用

簡易版の多言語パンフレットを作成して配布しているほか、翻訳機（ポケットーク）や多言語電話通訳サービスを活用した対応を行っているが、十分な取組であったとは言えないことから、外国人観光客への対応を充実させていく。



6-1-2. 本計画における取組

施行規則第1条第1項第1号

文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介

常設展示においては分かりやすい解説を念頭にリニューアルを行っており、今後來館者アンケートや再開館後の運用において気づいた改善点を整理し、常設展示の更新や解説の追加を実施する。

来館者の動向・ニーズを適切に把握しながら、慶長遣欧使節等の文化的・歴史的意義をより深く伝えるための展示の改善を重ねていく。

施行規則第1条第1項第2号

情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介

WEB上に慶長遣欧使節の歴史を分かりやすく紹介するコンテンツを制作するとともに、スマートフォンやタブレットでも快適な閲覧ができるよう、掲載コンテンツの情報整理やレスポンス化を行う。

また、展示リニューアル事業においてAR及びVR技術を活用した解説コンテンツを整備しており、本計画においては、展覧会の音声ガイドやスマートフォンで閲覧できる解説プログラムの提供も検討していく。

施行規則第1条第1項第3号

外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介

展示リニューアル事業においては、観光庁「HowTo 多言語解説文整備」に沿って2次元コードを活用した多言語解説を整備しているが、本計画で予定している常設展示の更新・解説の追加や、各種体験コンテンツ等の整備においても、同様に適切な多言語対応を行っていく。

また、WEBサイト上に観光庁「HowTo 多言語解説文整備」に沿った多言語ページを充実し、訪日外国人旅行者に対して、情報提供を行う。

6-2. 施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携

6-2-1. 現状の取組

文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

第1号の文化観光推進事業者とは、サン・ファン館及び石巻市サン・ファン・パウティスタパークの指定管理者である慶長遣欧使節船協会を窓口とし、サン・ファン館及びパークの運営を通して、石巻圏域の文化振興及び観光推進において連携している。

(1) 市内の観光案内・周遊に関する連携

石巻圏域の周辺施設の情報発信のため、周辺施設の紹介マップや周遊を促すパンフレットなどを、各事業者の協力のもと制作し拠点施設にて配布している。今回のリニューアルオープンでは、石巻・牡鹿半島周辺施設の紹介エントランスマップの製作についても連携している。

(2) 研修会における課題の共有やイベントにおける連携

インバウンドや観光集客に関する研修会に積極的に参加し、職員の定期的な学習及び情報交換の場として活用している。また地元イベントは勿論のこと、県外遠方のイベントについても共同で出張参加し、石巻圏域の観光振興に努めている。

(3) 石巻市サン・ファン・パウティスタパークを活用した連携

サン・ファン館隣接の石巻市サン・ファン・パウティスタパークは牡鹿半島へ向かう人々（金華山詣で、みちのく潮風トレイル）のルート上に位置し、石巻圏観光推進機構では街中からレンタサイクルでの周遊コースとしての誘導・誘致を進めている。

(4) 本計画策定における連携

拠点計画については、令和3年度から策定に向けたワーキンググループを開催し、現状の分析や課題について意見を交換しながら、計画策定のブラッシュアップを行った。

文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

サン・ファン館では、来館者へのアンケート調査により、利用者属性、利用実態、満足度、展示に関するニーズ等について把握整理し、内部でのサービス改善や展示企画に活用してきた。

文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

サン・ファン館の運営に関しては、年に1度事業評価を行っているものの、文化観光の観点からの取組は不足している。

文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

管理運営を担っている慶長遣欧使節船協会をはじめ、観光動向の調査・分析、観光戦略を担っている石巻市、石巻観光協会、石巻圏観光推進機構と石巻地域の課題や目指す観光像を踏まえ、既に取り組が行われている事業と本計画における事業内容のすり合わせを行った上で、各事業が円滑に進められるよう、一体となって事業を推進する。

(1) 滞在型観光を促進する事業の実施と連携

石巻地域は、日中のイベントに参加するだけの「通過型」の観光が中心となっている。これは温泉施設や宿泊施設が少ないこと、また朝・夜のコンテンツやツアーの提供が少ないことが要因と考えられる。

本計画において、文化理解を深めるための展示の充実や魅力的な体験コンテンツ、夜間開館による高付加価値コンテンツを造成することで、「滞在型」観光の推進を図っていく。

コンテンツ造成にあたっては拠点そのものの誘客力強化のほか、石巻地域の自然・食材、震災からの復興という観点で資源を紹介しながら、石巻地域全体の観光資源とのパッケージ化も念頭に連携を図っていく。

(2) 効果的な観光プロモーションのための事業のブラッシュアップと情報共有

サン・ファン館の魅力をグローバルに発信していくため、インバウンド観点での事業のブラッシュアップやSNS等を活用したPRの連携を図っていく。一過性ではないリピーターが多く訪れる観光地としていくため、関連事業者と魅力を共有するための勉強会も実施し、多言語整備を含む受入体制を構築していく。

(3) 最寄駅からのアクセスの向上

石巻駅から市内の観光地への公共交通アクセス手段が少ないため、自家用車利用以外の観光客の利便性が低く、二次交通の利便性向上を図る必要がある。本計画においては、まずは最寄り駅である「渡波駅」を中心にした利便性の向上を重点的に行いながら来館者のニーズを適切に把握し、長期的には当館だけに留まらない周遊アクセスの改善を図っていく。

文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

事業の実施にあたり、サン・ファン館におけるアンケート調査の項目を精査した上で継続実施し、現状を把握する。また、データの分析を進め、関係団体で情報を共有し事業の改善に努める。

文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

事業の効果的な実施のための評価指標の設定やPDCAサイクルの確立については、連携体制の構成員で協議の上設定し、1年ごとに事業検証・意見交換を行い、改善を繰り返していくことで目標達成を目指す。

文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めたにぎわいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

(1) 実行委員会による連携体制の構築

慶長遣欧使節船協会は、サン・ファン館と石巻市サン・ファン・バウティスタパークのPRを目的とする大規模イベント「サン・ファン祭り」実行委員会の事務局を担っており、企画・運営を通して、飲食及び物販出店・海上イベント等の民間事業者・団体とのつながりを有して、積極的な連携を図っている。



(2) 各種地域イベントにおける連携

上記の祭りのほか、外部イベントについてもサン・ファン館としてブース出展、出張ショップ、運営協力などを行っている。その他館内及び石巻市サン・ファン・バウティスタパークで開催されるイベントにおいても、民間事業者には適宜飲食提供の依頼、キッチンカーや地元銘品などの出店を誘致している。

(3) 館内ショップの商品開発・外部での販売における連携

館内ショップでは石巻の地場産品やその加工品の販売、復元船「サン・ファン・バウティスタ」号とコラボレーションした食品やグッズの開発を行い、地域産業の振興及びサン・ファン館来館者の満足度向上を図っていた。これらの商品は館内ショップのみならず、市内観光施設でも委託販売協力を受けている。

(4) オリジナルグッズの開発における連携

近年では、地元の制作業者と共同で復元船「サン・ファン・バウティスタ」号の補修材を使用して「思い出のかけら ティータイムトレイ」を制作し販売した。また、館内ショップにて当事業者の地元ゆるキャラオリジナルグッズや、サン・ファン館とのコラボレーショングッズなど専用コーナーを設けて取り扱っている。



文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めたにぎわいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

サン・ファン館が持つ文化資源を地域に還元し持続的な循環につなげるため、これまでの民間事業者とのつながりを活かしつつ、本計画で重視する体験企画・グッズ製作・飲食メニューの開発において、民間事業者との連携を強化していく。

(1) 飲食に関する土産品・体験メニュー等の連携

多くの観光客への訴求効果を生み、地域の幅広い事業者との連携が見込まれる「食」と「アート」をテーマに開発を行う。特に仙台藩の時代から根付く「お茶」「塩」「味噌」や、支倉常長が海外で食したとされる「チョコレート」など慶長遣欧使節に関連する商品やメニューを、各分野で専門知識を有する石巻地域の事業者と開発する。

(2) 帆船文化（操船、大工技術）に関する体験アクティビティの連携

港町石巻ではヨットやボートなど船に関する活動が盛んであり、体験等を開催する団体も多い。「サン・ファン祭り」でも連携体制を有する地元ヨットクラブが協力するヨット操縦体験などを行い、サン・ファン館の帆船文化展示と合わせて楽しめる体験とする。

また、石巻は木造船の建造が盛んな地域でもあったことから、船大工が培った石巻の大工技術を体験できる木工教室などを地元の工務店・組合と連携して実施していく。

(3) オリジナルグッズの開発に関する連携

サン・ファン館独自の文化資源を活かし、ここでしか手に入らないオリジナルグッズの開発について実績のある地元企業と進めていく。

使節船乗船者の中に潜水士がいたことにちなみ、「ウェットスーツ素材を活かしたグッズ」のダイビング用品店との連携開発、「地元のゆるキャラやご当地ヒーローとサン・ファン館のコラボレーショングッズ」の石ノ森萬画館との共同制作、「使節ゆかりの国々をモチーフとしたオリジナルスイーツ」の地元製菓店との開発、「石巻の海産物を活かした水産加工品」の地元水産会社との開発などがあげられる。

(4) ミュージウムカフェの運営とメニューの開発の連携

地元飲食店とコラボしたミュージウムカフェを整備する。当館のオリジナル要素として、料理を楽しみながら帆船や歴史の豆知識などを学べる企画なども合わせて開発する。運営に当たっては、協力する飲食店がこれまでに培った接客ノウハウやサービスを最大限生かし、料理の提供にとどまらず来館者が一息つける「くつろぎの空間」を提供する。

(5) 交通系事業者との連携

本計画においては、まずは最寄り駅からの利便性の向上を重点的に行いながら来館者のニーズを適切に把握し、JR、バス、タクシー、カーシェアリング等の交通系事業者と、継続的な周遊アクセス性の向上に向けて引き続き協議・改善を進めていく。

7. 文化観光拠点施設機能強化事業

7-1. 事業の内容

7-1-1. 文化資源の魅力の増進に関する事業

(事業番号 1 - ①)

事業名	慶長遣欧使節の意義を伝えるコンテンツ整備事業													
事業内容	<p>支倉常長らがヨーロッパから持ち帰った遺品は「慶長遣欧使節関連資料」として国宝に指定されており、使節の意義を伝える上で非常に重要な資料である。資料は仙台市博物館等の他館で所蔵しており、当館では実物資料を所蔵していない。事業においてこれらの造作物（複製資料、模型等）を制作することで展示内容の充実を図り、新規誘客やリピーターの獲得につなげる。</p> <p>◎整備・利活用する資料の例</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>利活用案の狙い</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ローマ教皇宛伊達政宗書状（日本語・ラテン語）</td> <td>慶長遣欧使節が持参し現存する書状として価値が高い／常設展示での使用を想定</td> </tr> <tr> <td>黒漆牡丹唐草薄文蒔絵書状箱（教皇宛伊達政宗書状附属）</td> <td>常設展示及び展覧会で活用</td> </tr> <tr> <td>坤輿万国全圖</td> <td>展覧会の中核展示物とする、17世紀の世界の地理認識、大航海時代などいろいろなテーマで活用できる、常設の地球儀と絡めて紹介</td> </tr> <tr> <td>支倉常長肖像画・パウロ5世肖像画（国宝）</td> <td>ユネスコ記憶遺産に登録されており、世界的な知名度がある。現物は国宝なので博物館的に公開時期が限られるが、複製であれば活用の幅・機会が広がる。</td> </tr> <tr> <td>ローマ市民権証書（国宝）</td> <td>慶長遣欧使節が海外で授与された貴重な資料で、デザイン・内容ともに高い価値がある。複製を制作することにより今後、グッズや広報等にも使いやすくなる。</td> </tr> </tbody> </table>		資料名	利活用案の狙い	ローマ教皇宛伊達政宗書状（日本語・ラテン語）	慶長遣欧使節が持参し現存する書状として価値が高い／常設展示での使用を想定	黒漆牡丹唐草薄文蒔絵書状箱（教皇宛伊達政宗書状附属）	常設展示及び展覧会で活用	坤輿万国全圖	展覧会の中核展示物とする、17世紀の世界の地理認識、大航海時代などいろいろなテーマで活用できる、常設の地球儀と絡めて紹介	支倉常長肖像画・パウロ5世肖像画（国宝）	ユネスコ記憶遺産に登録されており、世界的な知名度がある。現物は国宝なので博物館的に公開時期が限られるが、複製であれば活用の幅・機会が広がる。	ローマ市民権証書（国宝）	慶長遣欧使節が海外で授与された貴重な資料で、デザイン・内容ともに高い価値がある。複製を制作することにより今後、グッズや広報等にも使いやすくなる。
資料名	利活用案の狙い													
ローマ教皇宛伊達政宗書状（日本語・ラテン語）	慶長遣欧使節が持参し現存する書状として価値が高い／常設展示での使用を想定													
黒漆牡丹唐草薄文蒔絵書状箱（教皇宛伊達政宗書状附属）	常設展示及び展覧会で活用													
坤輿万国全圖	展覧会の中核展示物とする、17世紀の世界の地理認識、大航海時代などいろいろなテーマで活用できる、常設の地球儀と絡めて紹介													
支倉常長肖像画・パウロ5世肖像画（国宝）	ユネスコ記憶遺産に登録されており、世界的な知名度がある。現物は国宝なので博物館的に公開時期が限られるが、複製であれば活用の幅・機会が広がる。													
ローマ市民権証書（国宝）	慶長遣欧使節が海外で授与された貴重な資料で、デザイン・内容ともに高い価値がある。複製を制作することにより今後、グッズや広報等にも使いやすくなる。													
実施主体	公益財団法人慶長遣欧使節船協会													
実施時期	令和6年度 令和7年度 令和8年度 令和9年度 令和10年度													
継続見込	制作した造作物等は常設展示や展覧会で継続的に公開活用する。													
アウトプット目標	造作物の製作													
必要資金調達方法	12.0百万円（内訳下記）													
	4.0百万円 県指定管理料	8.0百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)												

事業名	展覧会及び関連企画の開催事業						
事業内容	<p>慶長遣欧使節をはじめとした文化資源の魅力増進及び理解につなげるため、定期的に展覧会などの各種事業を開催する。内容については、常設展示の主題を踏まえ、サン・ファン館を取り巻く文化的・地域的要素を中心とした様々なテーマを設定し、満足度の高い内容を検討する。</p> <p>◎展覧会の開催（テーマ案）</p> <p>(1) 地域の魅力・価値を掘り起こし発信する展覧会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で制作された芸術作品の展示 ・金華山を中心とした仙台藩の産金文化 ・港町石巻の成立と海運の発展 ・牡鹿半島の文化史 <p>(2) 慶長遣欧使節が旅した世界各国や異文化の魅力を発信する展覧会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化交流に関するもの（スペイン/イタリア/メキシコなど） ・南蛮文化やキリシタン文化、貿易品に関するもの <p>(3) 帆船文化・海洋文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の帆船（歴史/文化/芸術など） ・海賊に関する文化（歴史/伝説/文学作品など） <p>(4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慶長遣欧使節をモチーフとした作品展（彫刻/絵画/写真/映像/木工） <p>◎関連事業の実施</p> <p>地域の魅力・価値を継続して発信していくため、展覧会で製作した造作物・パネル等は、その後巡回展示への活用も検討していく。また、文化資源の背景について理解を深めるための関連事業（講演会・トークイベント・ワークショップなど）も開催する。</p> <p>◎地域事業者との連携企画</p> <p>サン・ファン館が持つ文化資源を地域に還元し持続的な循環につなげるため、体験事業や商品開発などの地域事業者と連携しながら、展示に連動した体験、限定グッズ、メニューなどの開発・提供も行っていく。</p>						
実施主体	公益財団法人慶長遣欧使節船協会						
実施時期	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度		
継続見込	慶長遣欧使節船協会の企画・設営・管理のもと継続する。						
アウトプット目標	展覧会開催（年2回）1回あたりの会期は2～4か月程度 ※予算規模は1回につき200～300万円程度を見込む。						
必要資金調達方法	<p>17.0百万円（内訳下記）</p> <table border="1" data-bbox="384 1895 1425 1989"> <tr> <td data-bbox="384 1895 759 1989">7.4百万円 県指定管理料</td> <td data-bbox="759 1895 1425 1989">9.6百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)</td> </tr> </table>					7.4百万円 県指定管理料	9.6百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)
7.4百万円 県指定管理料	9.6百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)						

(事業番号 1 - ③)

事業名	常設展示図録の製作	
事業内容	当館ではこれまで常設展示を紹介した図録がなかったことから、リニューアルオープンを機に展示内容を深く解説した公式ガイドブックを作成する。 展示で紹介しきれなかった他の文化資源との関連性、見どころなどの情報を掲載し、さらなる理解促進につなげる内容とする。 また、図録の一部を WEB で無料公開し、購入につなげる。	
実施主体	公益財団法人慶長遣欧使節船協会	
実施時期	令和 6 年度 令和 7 年度 令和 8 年度	令和 9 年度 令和 10 年度
継続見込	販売収益により、内容充実を図りながら継続する。	
アウトプット 目標	展示図録の発行	
必要資金 調達方法	5.4 百万円 (内訳下記)	
	1.8 百万円 県指定管理料	3.6 百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)

事業名	食とアートに関する体験企画事業の開発実施			
事業内容	<p>慶長遣欧使節の一連の対外交渉は、仙台藩における南蛮美術・キリシタン美術を含む分野の成立に影響を及ぼしたとされる。また、仙台藩主伊達政宗は食に造詣が深く、料理の記録も多数残されており仙台藩の食文化発展に貢献した。</p> <p>加えて支倉常長ら慶長遣欧使節は、7年の旅の中で船内での保存食から晩餐会での華やかな食事まで、国を超えたさまざまな食文化を経験した存在であった。</p> <p>これらを踏まえ、多くの人にとって身近な要素である「食文化」と「アート」（芸術・美術）をテーマとした体験企画事業を開発・実施する。</p> <p>石巻地域の事業者と共同で企画の開発を行い、文化資源への理解を深めるコンテンツを提供していく。</p> <p>◎事業者との連携内容の案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支倉常長がヨーロッパで味わった「チョコレート」に関する体験企画の共同開発（「支倉常長が日本人で初めて食した」といわれており、当時は香辛料が入った飲み物であった。） ・当時のガレオン船内で食べられていた保存食に関する体験企画の共同開発（保存の効く食材として船内に持ち込まれた干し飯や堅焼きビスケットなどを中心に開発。） ・伊達政宗が育んだお茶に関する体験企画の共同開発（「茶の湯」を通しての文化人の側面の紹介／石巻地域に根づくお茶文化の紹介） ・慶長遣欧使節の主要人物や仙台藩の武士、西洋文化にちなんだ衣装の着用体験など 			
実施主体	公益財団法人慶長遣欧使節船協会、(一社)石巻観光協会、(有)益野製菓、(株)いしかわ、(有)ファーム・ソレイユ東北、(株)ビヨンド			
実施時期	令和6年度 令和7年度 令和8年度 令和9年度 令和10年度			
継続見込	参加費を基にして事業を継続する。			
アウトプット目標	体験整備6セット以上企画、参加者1企画当たり120名／1年			
必要資金調達方法	<p>4.8百万円（内訳下記）</p> <table border="1" data-bbox="395 1756 1406 1850"> <tr> <td data-bbox="395 1756 778 1850">1.6百万円 県指定管理料</td> <td data-bbox="786 1756 1406 1850">3.2百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)</td> </tr> </table> <p>※利用者からの参加費は本事業の事業費に充当する</p>		1.6百万円 県指定管理料	3.2百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)
1.6百万円 県指定管理料	3.2百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)			

事業名	食と音楽による高付加価値コンテンツの造成・提供事									
事業内容	<p>慶長遣欧使節は海外で各地の楽器や伝統音楽、宗教音楽に触れた記録が残っている。「食」「音楽」「アート」をテーマに、慶長遣欧使節に関する芸術・音楽・食文化を味わえる高付加価値の特別体験プログラムを整備する。</p> <p>企画・運営にあたっては、牡鹿半島を中心に継続開催されている芸術祭のノウハウを有する団体の協力を得ながら、特別感のある体験を提供するためのコンテンツを整備する。</p> <p>コンテンツ整備にあたっては、有償での体験ツアーを1～2回程度実施し、フィードバック・ブラッシュアップを図りながら自走化を目指す。</p> <p>コンテンツの提供にあたっては、夜間のアイドルタイムを利用し、展示室の特別公開や船を中心とした広場のライトアップなど通常開館とは違う魅力がある夜の空間を活用する。さらに高付加価値のプログラムを実施することで、文化理解と満足度が高まるコンテンツの提供を目指す。</p> <p>◎想定する内容</p> <table border="1" data-bbox="427 981 1369 1317"> <tr> <td>場 所</td> <td>全館（展示室・シアター・ドック棟広場等）</td> </tr> <tr> <td>人 数</td> <td>20～30人</td> </tr> <tr> <td>内 容</td> <td>専門家を招いた講演会／プロのアーティストによる演奏会／演劇・演舞、朗読会／支倉常長が訪れたスペイン料理の提供と解説／学芸員による展示解説／記念品の提供</td> </tr> <tr> <td>参加費</td> <td>5千円～1万円</td> </tr> </table>		場 所	全館（展示室・シアター・ドック棟広場等）	人 数	20～30人	内 容	専門家を招いた講演会／プロのアーティストによる演奏会／演劇・演舞、朗読会／支倉常長が訪れたスペイン料理の提供と解説／学芸員による展示解説／記念品の提供	参加費	5千円～1万円
場 所	全館（展示室・シアター・ドック棟広場等）									
人 数	20～30人									
内 容	専門家を招いた講演会／プロのアーティストによる演奏会／演劇・演舞、朗読会／支倉常長が訪れたスペイン料理の提供と解説／学芸員による展示解説／記念品の提供									
参加費	5千円～1万円									
実施主体	公益財団法人慶長遣欧使節船協会、(一社)石巻観光協会									
実施時期	令和6年度 令和7年度 令和8年度 令和9年度 令和10年度									
継続見込	造成したコンテンツを活用した収益で継続する									
アウトプット目標	高付加価値コンテンツの開発（3プログラム）									
必要資金調達方法	<p>1.2百万円（内訳下記）</p> <table border="1" data-bbox="387 1720 1385 1816"> <tr> <td style="background-color: #d9e1f2;">0.4百万円 県指定管理料</td> <td style="background-color: #f4cccc;">0.8百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)</td> </tr> </table> <p>※利用者からの参加費は本事業の事業費に充当する</p>		0.4百万円 県指定管理料	0.8百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)						
0.4百万円 県指定管理料	0.8百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)									

7-1-2.情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他の国内外からの観光旅客が文化についての理解を深めることに資する措置に関する事業

(事業番号2-①)

事業名	帆船と航海に関する体験企画事業の整備と実施			
事業内容	<p>慶長遣欧使節船の建造及び航海には西洋の技術が用いられ、仙台藩が世界最新の文化に触れるきっかけとなったとされる。また、使節船建造に結実した様々な技術は、造船だけでなく航海術・気象・天文・金工・木工・銃器・火器の製造と操作など、多くの分野に及んだ。</p> <p>当事業では、木造船の文化や人類の知恵の結晶である航海術などをはじめとした帆船文化をより分かりやすく伝えることを目的とした体験企画事業の立案・整備を行う。</p> <p>◎事業者との共同企画の一例</p> <p>石巻セーリングアカデミーと操船技術を学ぶロープワーク体験、風を感じるヨット体験&クルージング体験（伝馬船ろ漕ぎも検討）／専門家を招いての天体観測体験（星座観察会）や海図セミナー／地域の木工会社とのかんながけ体験や木工教室、火起こし体験など</p>			
実施主体	公益財団法人慶長遣欧使節船協会、(一社)石巻観光協会、相内木工、石巻セーリングアカデミー			
実施時期	令和6年度 <input type="checkbox"/> 令和7年度 <input type="checkbox"/> 令和8年度 <input type="checkbox"/> 令和9年度 <input type="checkbox"/> 令和10年度 <input type="checkbox"/>			
継続見込	整備した設備は継続的に利用し、ランニングコストは体験料収入・指定管理料で対応する。			
アウトプット目標	体験企画6コンテンツ以上整備（年間3回程度実施） 参加者計120名／1年（体験料500～1,000円程度想定）			
必要資金調達方法	<p>9.0百万円（内訳下記）</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; text-align: center;">3.0百万円 県指定管理料</td> <td style="width:50%; text-align: center;">6.0百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)</td> </tr> </table> <p>※利用者からの体験料は本事業の事業費に充当する</p>		3.0百万円 県指定管理料	6.0百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)
3.0百万円 県指定管理料	6.0百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)			

(事業番号 2 - ②)

事業名	天文と航海術に関するプラネタリウムコンテンツの制作			
事業内容	<p>帆船航海の基本となった天文航法を学ぶ一環として、プラネタリウム機器及び映像プログラムを整備する。</p> <p>プラネタリウム機器は可動式とし、当館の展示リニューアル後の有効スペースや動線計画を踏まえ、適切な場所（企画展示室、セミナールーム、ドック棟展示室等）と仕様を検討する。</p> <p>映像プログラムの内容としては、ドック棟の航海展示と連動し、航海の際に目印とした北極星などの星座の動きや天体現象、関連する文化などの解説を行う。また当館でしか体験できない要素として、慶長遣欧使節が旅をした1613年ごろの星空をシミュレーターで再現し、音響などの効果を加えることで当時の航海を臨場的に表現する。</p> <p>整備したプログラムは大人数を収容できるシアター、セミナールームでの活用も検討し、継続的な運用を行っていく。</p>			
実施主体	公益財団法人慶長遣欧使節船協会			
実施時期	令和6年度 令和7年度 令和8年度 令和9年度 令和10年度			
継続見込	整備した機器は継続的に利用し、ランニングコストは指定管理料で対応する。			
アウトプット目標	プラネタリウムコンテンツの制作と機器の整備			
必要資金調達方法	<p>9.0百万円（内訳下記）</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; background-color: #e6f2ff;">3.0百万円 県指定管理料</td> <td style="width: 50%; background-color: #ffe6e6;">6.0百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)</td> </tr> </table>		3.0百万円 県指定管理料	6.0百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)
3.0百万円 県指定管理料	6.0百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)			

(事業番号 2 - ③)

事業名	常設展示追加・更新事業			
事業内容	<p>常設展示においては分かりやすい解説を念頭にリニューアルを行ったが、来館者アンケートや再開館後の運用において気づいた改善点を整理し、国内外からのさまざまな来訪者に対応する展示解説等を追加整備する。内容については適切な手法を検討しながら整備を進めていく。</p> <p>常設展示の内容に連動した体験展示や、子どもから大人まで楽しく学べるコンテンツとして航海用具などのハンズオン展示を拡充していく。来館者に実際に触れてもらうことで資料の特性や道具の使い方・機能等を伝える。</p> <p>また、観光庁「How To 多言語解説文整備」に沿ったインバウンド旅行者向け解説の追加、音声ガイドやスマートフォンで閲覧できる解説プログラムの提供等についても検討していく。</p>			
実施主体	公益財団法人慶長遣欧使節船協会			
実施時期	令和 6 年度 令和 7 年度 令和 8 年度 令和 9 年度 令和 1 0 年度			
継続見込	整備・改修した施設・展示等は継続して利用する。			
アウトプット 目標	総合的な展示理解の満足度向上			
必要資金 調達方法	<p>1 4.4 百万円（内訳下記）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">4.8 百万円 県指定管理料</td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">9.6 百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)</td> </tr> </table>		4.8 百万円 県指定管理料	9.6 百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)
4.8 百万円 県指定管理料	9.6 百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)			

7-1-3.国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活用施設の利用に係る文化観光に関する利便の増進に関する事業

(事業番号 3 - ①)

事業名	サン・ファン館利用に係る利便性向上事業
事業内容	<p>国内外からの観光客の満足度を高めるとともに、今後さらに需要の高まるデジタルサービスに対応するため、電子マネーなど運営システムの整備やキャッシュレス決済の整備を進める。またインバウンド旅行者向けの案内サインの多言語化も並行して進める。</p> <p>また、職員や連携事業者等を対象とした講習会・研修会を開催し、英会話能力や接遇の向上も図っていく。</p>
実施主体	公益財団法人慶長遣欧使節船協会、(一社)石巻観光協会、(一社)石巻圏観光推進機構
実施時期	令和 6 年度 令和 7 年度 令和 8 年度 令和 9 年度 令和 10 年度
継続見込	事業期間終了後は指定管理料や自主予算でサービス向上を図っていく。
アウトプット目標	サン・ファン館入館者の増加
必要資金調達方法	6 - ①に記載

(事業番号 3-②)

事業名	石巻市サン・ファン・バウティスタパークの利便性向上	
事業内容	<p>石巻市サン・ファン・バウティスタパークは牡鹿半島へ向かう人々（金華山参詣、みちのく潮風トレイル）のルート上にある。トイレ休憩を含めた立ち寄りスポットとしての機能を高めるため、街中からレンタサイクルでの周遊コースとしての誘導・案内サイン整備のほか、展望棟周辺にベンチや植栽、花壇などを整備する。</p> <p>晴天時などは景色を楽しみながらピクニックなども可能な「憩いの場」としての魅力増進を図り、利用者の滞在時間や満足度を向上させる。</p> <p>Wi-Fi 環境の整備に加え、子どもたちの学び（遊び）の場となるよう工夫したコンテンツの提供も検討していく。サン・ファン館休館日の来場者に対する利便性の向上も図り、リピーターの増加につなげる。</p>	
実施主体	公益財団法人慶長遣欧使節船協会、石巻市、(一社)石巻観光協会、(一社)石巻圏観光推進機構	
実施時期	令和 6 年度	令和 7 年度
継続見込	令和 8 年度	
	令和 9 年度	
	令和 10 年度	
継続見込	整備・改修した施設は継続して利用する。	
アウトプット 目標	石巻市サン・ファン・バウティスタパーク来場者の増加	
必要資金 調達方法	1 0.8 百万円（内訳下記）	
	3.6 百万円 協会自己資金	7.2 百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)

事業名	サン・ファン館への交通案内の強化			
事業内容	<p>サン・ファン館の最寄り駅である渡波駅は、石巻駅から J R 石巻線及び路線バスが合わせて 10 本前後、おおよそ 1 時間に 1 本程度運行しており、サン・ファン館へのアクセスルートの一つとして活用できる。そのため、公共交通機関を利用する来館者へのルート周知対策を行い、車以外での来館者の利便性向上を図る。</p> <p>①サン・ファン館WEBサイト等の案内の充実</p> <p>石巻駅から渡波駅までの J R ・路線バスルートの乗り場案内や時刻表を含めた詳細な案内を行う。さらに、渡波駅からの写真付き徒歩ルート地図やタクシー配車番号の追加表示を行う。</p> <p>さらに、石巻駅や主要観光施設からサン・ファン館へのアクセス情報も充実させ、石巻市内を回遊する来訪者を呼び込む。</p> <p>②渡波駅周辺案内の充実</p> <p>J R 及び路線バスの到着地点である渡波駅からサン・ファン館までの Google マップと 2 次元コードを用いた徒歩ルート案内、およびタクシー案内（料金目安、配車番号など）、復路のバス乗り場（渡波駅から少し離れた場所にあり、旅行者には分かりにくい）や時刻表の案内を行う。</p> <p>また、渡波駅敷地内に設置してある案内看板の更新等を行う。</p>			
実施主体	公益財団法人慶長遣欧使節船協会、(株)ミヤコーバス 石巻営業所			
実施時期	令和 6 年度 令和 7 年度 令和 8 年度 令和 9 年度 令和 1 0 年度			
継続見込	事業期間終了後も継続し、案内充実を図っていく。			
アウトプット 目標	サン・ファン館入館者の増加			
必要資金 調達方法	<p>0.9 百万円（内訳下記）</p> <table border="1" data-bbox="411 1608 1406 1697"> <tr> <td style="background-color: #d9e1f2;">0.3 百万円 県指定管理料</td> <td style="background-color: #f4cccc;">0.6 百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)</td> </tr> </table>		0.3 百万円 県指定管理料	0.6 百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)
0.3 百万円 県指定管理料	0.6 百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)			

7-1-4.文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関する事業

(事業番号4-①)

事業名	ミュージアムショップ商品開発事業（自主事業）									
事業内容	<p>地域事業者と連携し、慶長遣欧使節や帆船に関連したグッズや、ここでしか手に入らないサン・ファン館限定のショップ商品を開発・販売する。商品は、豊かなストーリーを体感するための素材として、展示・体験との連動を行いながら、理解の促進や満足度の向上にもつなげる。</p> <p>また、購入意欲を増進するためサン・ファンショップ自体の魅力的なリニューアルも行い、ブランディングの創出と強化・資源の高付加価値化・展示ストーリーの補足なども行う。商品は館内のショップで販売するほか、外部販売やオンライン販売なども展開していく。</p> <p>◎商品例</p> <table border="1"> <tr> <td>食品</td> <td>石巻市桃生町産の北限茶葉を使用した緑茶・和紅茶 仙台藩からの伝統を受け継ぐ味噌・塩・お米</td> </tr> <tr> <td>工芸品</td> <td>宮城県の伝統的な工芸品「こけし」 スペイン発祥、鮮やかな色彩の「スペインタイル」</td> </tr> <tr> <td>日用品/文具</td> <td>手ぬぐい/マグネット/アクリルスタンド など</td> </tr> </table>				食品	石巻市桃生町産の北限茶葉を使用した緑茶・和紅茶 仙台藩からの伝統を受け継ぐ味噌・塩・お米	工芸品	宮城県の伝統的な工芸品「こけし」 スペイン発祥、鮮やかな色彩の「スペインタイル」	日用品/文具	手ぬぐい/マグネット/アクリルスタンド など
食品	石巻市桃生町産の北限茶葉を使用した緑茶・和紅茶 仙台藩からの伝統を受け継ぐ味噌・塩・お米									
工芸品	宮城県の伝統的な工芸品「こけし」 スペイン発祥、鮮やかな色彩の「スペインタイル」									
日用品/文具	手ぬぐい/マグネット/アクリルスタンド など									
実施主体	公益財団法人慶長遣欧使節船協会、(一社)石巻観光協会、(有)益野製菓、(株)いしかわ、(有)ファーム・ソレイユ東北、相内木工、(株)ビヨンド									
実施時期	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度 令和10年度						
継続見込	事業期間終了後は販売収入で継続する。									
アウトプット目標	慶長遣欧使節関係の新規オリジナルグッズ開発10点 地元企業と連携した土産品の開発5点									
必要資金調達方法	3.6百万円（内訳下記） 3.6百万円/協会自己資金									

(事業番号4-②)

事業名	ミュージアムカフェにおける飲食の提供・商品開発事業	
事業内容	<p>地元の飲食店とコラボし、慶長遣欧使節または帆船をモチーフとした「サンセットカフェ」や、「サン・ファン・バウティスタ号の船内をイメージしたカフェ」等を設置する。あわせて慶長遣欧使節と使節が訪れた国に関連した飲食メニューや、帆船に関する魅力的なメニューを企画開発、提供を行う。</p> <p>◎慶長遣欧使節や帆船に関するメニューの開発・提供</p> <p>支倉常長には「チョコレート初めて食した日本人」という説があるため、当時のチョコレートをイメージしたメニューなどを提供する。また、慶長遣欧使節が船に持ち込んだ食料と関連したメニュー（干し飯、船乗りの固焼きビスケット、梅干し・干し魚など）、帆船をモチーフにしたメニューの開発も行う。</p>	
実施主体	公益財団法人慶長遣欧使節船協会、(一社)石巻観光協会、(株)いしかわ	
実施時期	令和6年度	令和7年度
継続見込	事業期間終了後は販売収入で継続する。	
アウトプット目標	オリジナルメニューの開発・提供	
必要資金調達方法	1.2百万円（内訳下記）	
	0.4百万円 協会自己資金	0.8百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)

7-1-5.国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業

(事業番号5-①)

事業名	WEB サイトリニューアル事業	
事業内容	<p>リニューアル後の展示内容に合わせてページを再編成する。情報の分かりやすさを第一にしつつも、来館への期待を高めるためのコンテンツなども盛り込む。同時にスマートフォンやタブレットでも快適に閲覧するための対応も進める。</p> <p>また、観光庁「How To 多言語解説文整備」に沿ったWEBサイトの多言語化についても進める。海外からも慶長遣欧使節の歴史などに興味を持ってもらうとともに、サン・ファン館への交通アクセス情報も併せて掲載することで実際の来館へとつなげる。</p> <p>また、既存のアドオンやワードプレス、外部サイトとの連携により、予約機能等の追加も検討し、費用対効果を踏まえながら利便性の向上に努める。</p> <p>【計画】</p> <p>令和6年度：現WEBサイトを修正・簡易多言語LP追加 令和7年度：WEBサイト全面リニューアル 令和8～9年度：運用～フィードバック 令和10年度：計画最終年度においては本計画で整備した各種コンテンツを集約して紹介し、計画終了後の運用を見据えた追加更新整備を行う</p>	
実施主体	公益財団法人慶長遣欧使節船協会、(一社)石巻観光協会	
実施時期	令和6年度	令和7年度 令和8年度 令和9年度 令和10年度
継続見込	事業期間終了後の更新は指定管理料を財源として実施する。	
アウトプット目標	サン・ファン館WEBサイトのリニューアル及び多言語化	
必要資金調達方法	6.2百万円（内訳下記）	
	2.6百万円 県指定管理料	3.6百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)

事業名	多言語パンフレット製作事業	
事業内容	<p>現在、簡易版の多言語パンフレットを整備しているが、より外国人来館者の動機づけとなるようなパンフレットへの更新を行う。内容については、多言語整備を行った展示解説の導入部として効果的に機能するよう、観光庁「How To 多言語解説文整備」に沿って、前提知識のない来館者に対する歴史背景の解説や周辺の文化観光資源、アクセス方法等の補足情報を追加する。</p> <p>パンフレットはデジタル化を前提とし、リニューアル予定のWEBサイトに掲載するほか、地域の観光事業者（自治体・観光協会・旅行会社等）等と共有する。</p> <p>また、紙媒体も製作し、県内外の関係施設（博物館・観光集客施設・宿泊施設）等に配布することで、来訪中のインバウンド旅行者への効果的な宣伝を行う。</p>	
実施主体	公益財団法人慶長遣欧使節船協会、(一社)石巻観光協会	
実施時期	令和6年度	令和7年度 令和8年度 令和9年度 令和10年度
継続見込	事業期間終了後の更新は指定管理料を財源として実施する。	
アウトプット目標	多言語パンフレット製作（英／簡／繁／韓）	
必要資金調達方法	2.7百万円（内訳下記）	
	1.7百万円 県指定管理料	1.0百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)

7-1-6.7-1-1～7-1-5 の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業

(事業番号 6 - ①)

事業名	サン・ファン館の利便性向上のための整備（関連事業：3 - ①）	
事業内容	電子マネーを利用したチケット購入システムの導入・ショップレジの整備／コインロッカー・授乳室・おむつ交換台の整備／バリアフリー設備の利便性向上（トイレ等）／スマートフォンの充電サービスなど	
実施主体	公益財団法人慶長遣欧使節船協会	
実施時期	令和6年度	令和7年度 令和8年度 令和9年度 令和10年度
継続見込	整備・改修した設備は継続して利用する。	
アウトプット目標	入館者の増加	
必要資金調達方法	12百万円（内訳下記）	
	4.8百万円 県指定管理料	7.2百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)

(事業番号 6 - ②)

事業名	ミュージアムカフェの設置・厨房設備の整備（関連事業：4 - ②）	
事業内容	<p>サン・ファン館開館当初は展望棟にレストラン、ドック棟にカフェがあり飲食物を提供していたが、いずれも撤退し現在は営業を行っていない。飲食提供の有無については問い合わせも多く需要があるため、来館者の満足度向上のためにミュージアムカフェを整備し、併せて景観整備を行う。</p> <p>厨房設備については、これまで2022（令和4）年度のソフトクリーム提供に合わせて一部を修繕したのみであった。今回施設を改めて整備することで、より多くの飲食物を調理・提供できるようにする。</p>	
実施主体	公益財団法人慶長遣欧使節船協会	
実施時期	令和6年度	令和7年度 令和8年度 令和9年度 令和10年度
継続見込	整備・改修した設備は継続して利用する。	
アウトプット目標	厨房設備の整備・ミュージアムカフェの構築	
必要資金調達方法	10.8百万円（内訳下記）	
	4百万円 協会自己資金	6.8百万円 文化観光推進事業補助金(文化庁)

7-2.特別の措置に関する事項

7-2-1.必要とする特例措置の内容

事業番号・事業名	
必要とする特例の根拠	文化観光推進法第 条（ 法の特例）
特例措置を受けようとする主体	
特例措置を受けようとする事業内容	
当該事業実施による文化観光推進に対する効果	

7-3.必要な資金の額及び調達方法

令和6年度

総事業費	事業番号	所要資金額	内訳
8.8百万円	事業番号1-②：展覧会及び関連企画の開催事業	2.6百万円	2.6百万円 県指定管理料
	事業番号4-①：ミュージアムショップ商品開発事業（自主事業）	2.4百万円	2.4百万円 協会自己資金
	事業番号5-①：WEBサイトリニューアル事業	0.8百万円	0.8百万円 県指定管理料
	事業番号5-②：多言語パンフレット製作事業	1.2百万円	1.2百万円 県指定管理料
	事業番号6-①：サン・ファン館の利便性向上のための整備	1.2百万円	1.2百万円 県指定管理料
	事業番号6-②：ミュージアムカフェの設置・厨房設備の整備	0.6百万円	0.6百万円 協会自己資金

令和7年度

総事業費	事業番号	所要資金額	内訳
30.6百万円	事業番号1-①：慶長遣欧使節の意義を伝えるコンテンツ整備事業	3.6百万円	1.2百万円 県指定管理料 2.4百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号1-②：展覧会及び関連企画の開催事業	3.6百万円	1.2百万円 県指定管理料 2.4百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号2-①：帆船と航海に関する体験企画事業の整備と実施	3.6百万円	1.2百万円 県指定管理料 2.4百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号3-③：サン・ファン館への交通案内の強化	0.9百万円	0.3百万円 県指定管理料 0.6百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号4-①：ミュージアムショップ商品開発事業（自主事業）	1.2百万円	1.2百万円 協会自己資金
	事業番号5-①：WEBサイトリニューアル事業	3.6百万円	1.2百万円 県指定管理料 2.4百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号5-②：多言語パンフレット製作事業	1.5百万円	0.5百万円 県指定管理料 1.0百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号6-①：サン・ファン館の利便性向上のための整備	5.4百万円	1.8百万円 県指定管理料 3.6百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号6-②：ミュージアムカフェの設置・厨房設備の整備	7.2百万円	2.4百万円 協会自己資金 4.8百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）

令和8年度

総事業費	事業番号	所要資金額	内訳	
29.4百万円	事業番号1-①：慶長遣欧使節の意義を伝えるコンテンツ整備事業	3.6百万円	1.2百万円 県指定管理料	2.4百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号1-②：展覧会及び関連企画の開催事業	3.6百万円	1.2百万円 県指定管理料	2.4百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号1-④：食とアートに関する体験企画事業の開発実施	2.4百万円	0.8百万円 県指定管理料	1.6百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号2-②：天文と航海術に関するプラネタリウムコンテンツの制作	9.0百万円	3.0百万円 県指定管理料	6.0百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号3-②：石巻市サン・ファン・バウティスタパークの利便性向上	3.6百万円	1.2百万円 協会自己資金	2.4百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号4-②：ミュージアムカフェにおける飲食の提供・商品開発事業	0.6百万円	0.2百万円 協会自己資金	0.4百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号6-①：サン・ファン館の利便性向上のための整備	3.6百万円	1.2百万円 県指定管理料	2.4百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号6-②：ミュージアムカフェの設置・厨房設備の整備	3.0百万円	1.0百万円 協会自己資金	2.0百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）

令和9年度

総事業費	事業番号	所要資金額	内訳	
26.4百万円	事業番号1-①：慶長遣欧使節の意義を伝えるコンテンツ整備事業	2.4百万円	0.8百万円 県指定管理料	1.6百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号1-②：展覧会及び関連企画の開催事業	3.6百万円	1.2百万円 県指定管理料	2.4百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号1-③：常設展示図録の製作	5.4百万円	1.8百万円 県指定管理料	3.6百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号2-①：帆船と航海に関する体験企画事業の整備と実施	3.6百万円	1.2百万円 県指定管理料	2.4百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号2-③：常設展示追加・更新事業	7.2百万円	2.4百万円 県指定管理料	4.8百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号3-②：石巻市サン・ファン・パウティスタパークの利便性向上	3.6百万円	1.2百万円 協会自己資金	2.4百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号4-②：ミュージアムカフェにおける飲食の提供・商品開発事業	0.6百万円	0.2百万円 協会自己資金	0.4百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）

令和10年度

総事業費	事業番号	所要資金額	内訳	
25.8百万円	事業番号1-①：慶長遣欧使節の意義を伝えるコンテンツ整備事業	2.4百万円	0.8百万円 県指定管理料	1.6百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号1-②：展覧会及び関連企画の開催事業	3.6百万円	1.2百万円 県指定管理料	2.4百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号1-④：食とアートに関する体験企画事業の開発実施	2.4百万円	0.8百万円 県指定管理料	1.6百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号1-⑤：食と音楽による高付加価値コンテンツの造成・提供事業	1.2百万円	0.4百万円 県指定管理料	0.8百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号2-①：帆船と航海に関する体験企画事業の整備と実施	1.8百万円	0.6百万円 県指定管理料	1.2百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号2-③：常設展示追加・更新事業	7.2百万円	2.4百万円 県指定管理料	4.8万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号3-②：石巻市サン・ファン・パウティスタパークの利便性向上	3.6百万円	1.2百万円 協会自己資金	2.4百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号5-①：WEBサイトリニューアル事業	1.8百万円	0.6百万円 県指定管理料	1.2百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
	事業番号6-①：サン・ファン館の利便性向上のための整備	1.8百万円	0.6百万円 県指定管理料	1.2百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）

令和6～10年度合計

121.0百万円	35.4百万円 県指定管理料	11.6百万円 協会自己資金	74.0百万円 文化観光推進事業補助金（文化庁）
----------	-------------------	-------------------	-----------------------------

※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

8. 計画期間

令和6年度～令和10年度（5年間）

- ・令和6年度は展示のリニューアルのほか、各事業の準備等に取り組む。
- ・リニューアルオープン後の令和7年度以降は、来館者・観光客へのアプローチを本格的に行い、新規開拓や固定化を図る。